

1. 第1回調査結果の概要

調査は、2005年11月11日（金）～12月12日（月）の期間に郵送法によって行われた。発送数は1,088票、有効票は389票、有効回収率は35.8%である。調査対象は人口学、経済学、家族社会学、公衆衛生学を中心とした有識者で、以下、第1回デルファイ調査の主要な結果について、とくに予測値と政策に関する設問を中心にまとめた。

0. 回答者の属性

0-1. 回答者の性別（表1）

性別	度数	割合	有効割合
男性	220	56.6%	57.4%
女性	163	41.9%	42.6%
無回答	6	1.5%	0%
合計	389	100%	100%

0-2. 回答者の年齢

図1 10歳階級別年齢分布

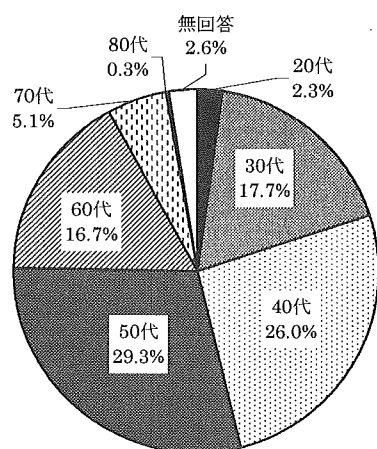


表2 性別でみる年齢の統計指標

統計指標	男性	女性	総数
度数 有効	217	160	379
欠損値	0	0	10
平均値	52.7歳	48.4歳	50.3歳
中央値	53歳	47歳	50歳
最頻値	60歳	40歳	57歳
標準偏差	11.6	13.9	11.6
最小値	28歳	26歳	26歳
最大値	81歳	75歳	81歳

回答者の属性は、性別では男性220名、女性163名、無回答6名である（表1）。年齢では、40代から50代が中心であり、平均年齢は50.3歳である（図1、表2）。

0-3. 回答者の専門領域（複数回答、図2）と関心領域（複数回答、図3）

図2 回答者の専門領域（複数回答）

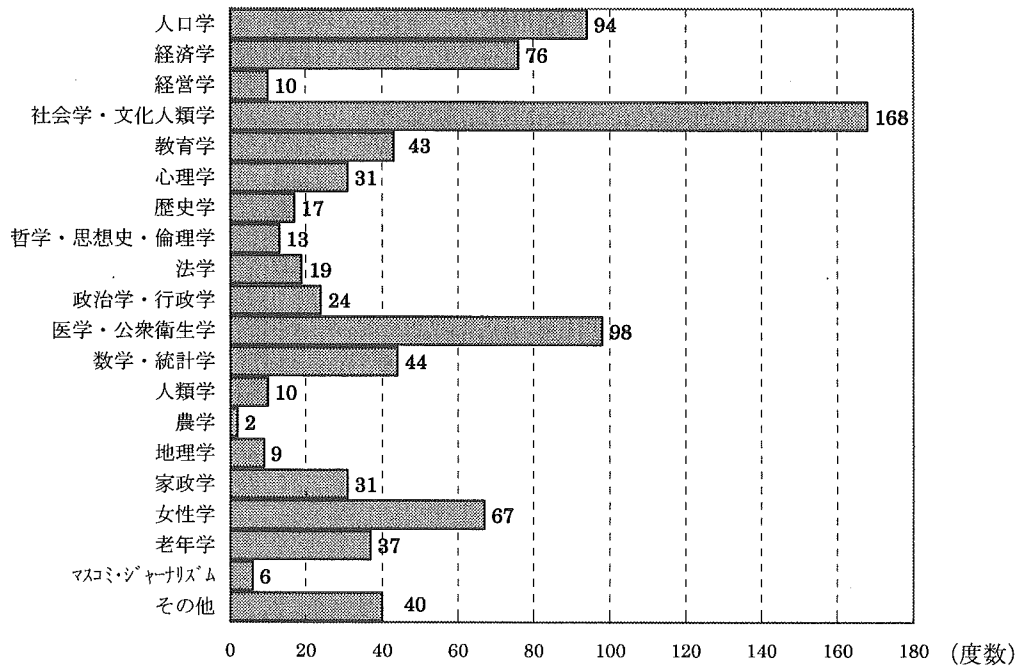
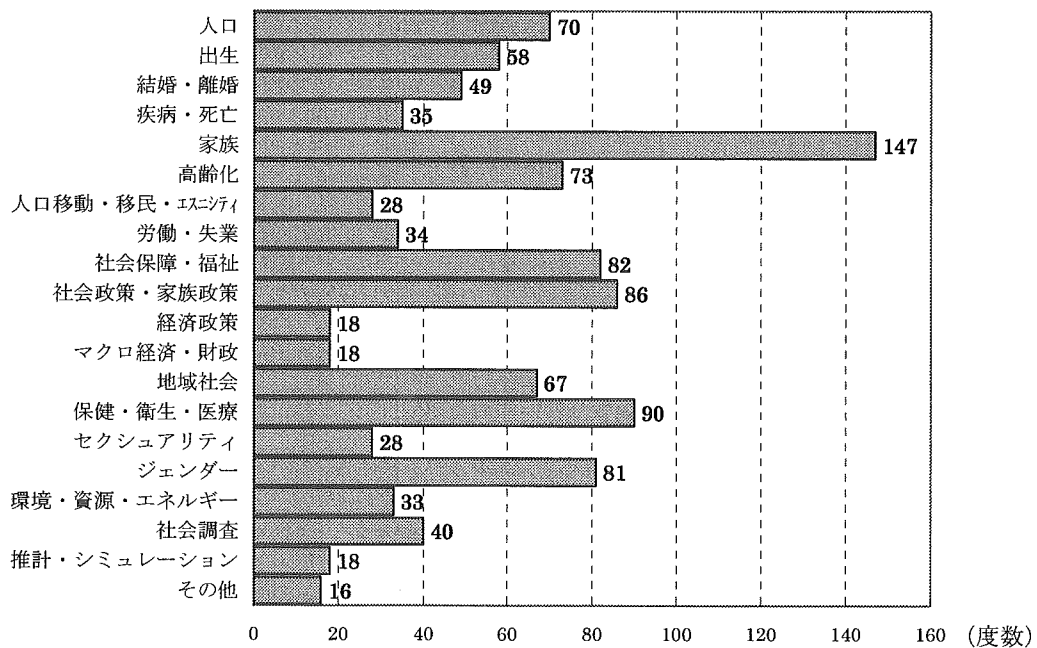


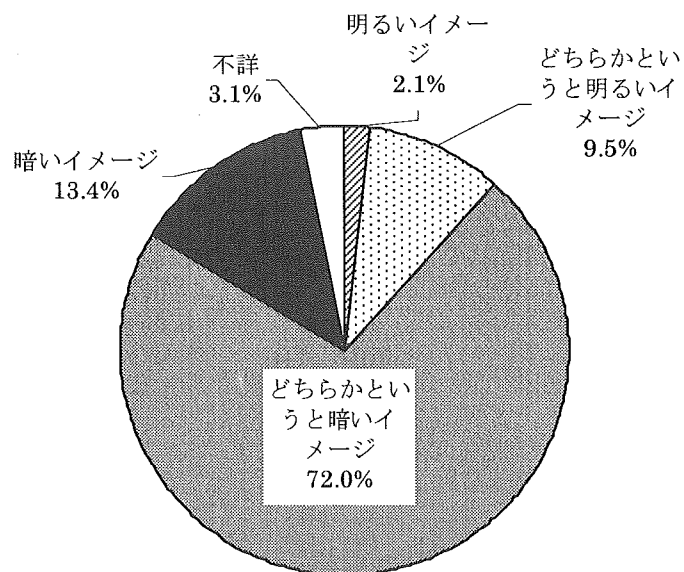
図3 回答者の関心領域（複数回答）



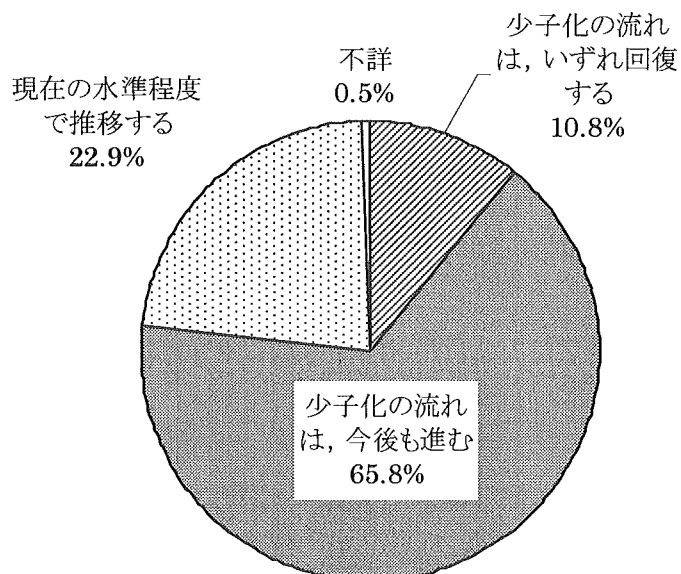
回答者の専門領域は、「社会学・文化人類学」、「医学・公衆衛生学」、「人口学」、「経済学」が中心となっており、関心領域は「家族」が最も多く、「保健・衛生・医療」、「社会政策・家族政策」、「社会保障・福祉」、「ジェンダー」と続いている。

1. 「少子高齢化社会」について

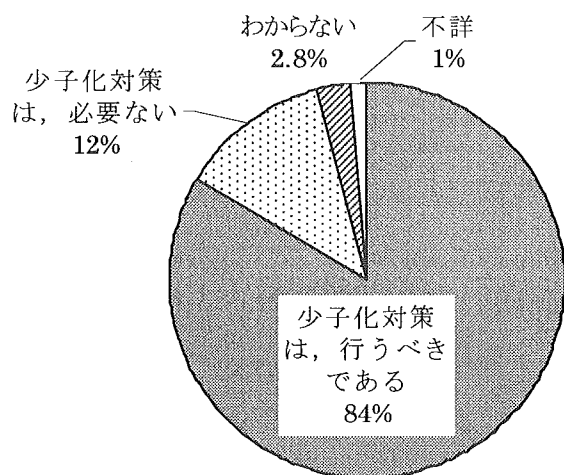
1-1. あなたは「少子高齢化社会」にどのようなイメージをお持ちですか（図4、N=389）



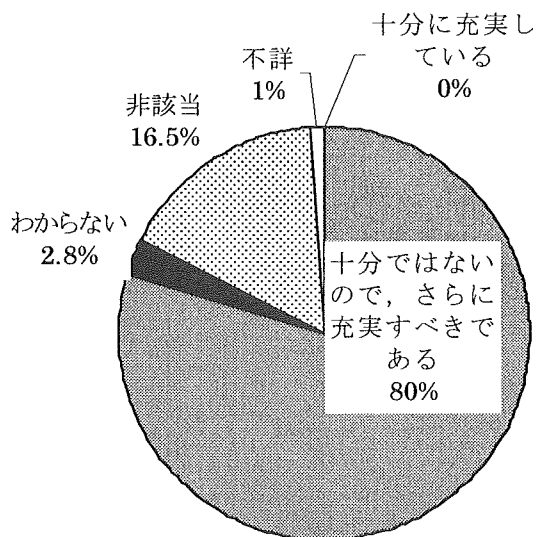
1-2. あなたは「少子化」の流れ（出生率の継続的な低下）をどのように考えていますか（図5、N=389）。



1-3. あなたは「少子化対策」を行なうべきだと思いますか（図6、N=389）。



1-4. 現在行なわれている少子化対策は十分だと思いますか（図7、N=325）。



「少子高齢化社会」についてのイメージは「どちらかといえば暗いイメージ」が72.0%、「暗いイメージ」が13.4%と、8割強が暗いイメージであると回答している（図4）。「少子化」の流れについても、65.8%が「少子化の流れは今後も進む」と回答し、「少子化の流れは、いずれ回復する」と回答した専門家は1割程度だった（図5）。

「少子化対策」については、84%が「行うべき」と回答しており、現在行われている少子化対策は「十分ではないので、さらに充実すべきである」と回答する専門家が8割を占めた（図6-7）。

1-5. 少子化の原因：結婚行動の変化（複数回答、図8）と出生行動の変化（複数回答、図9）

図8 少子化の原因：結婚行動の変化

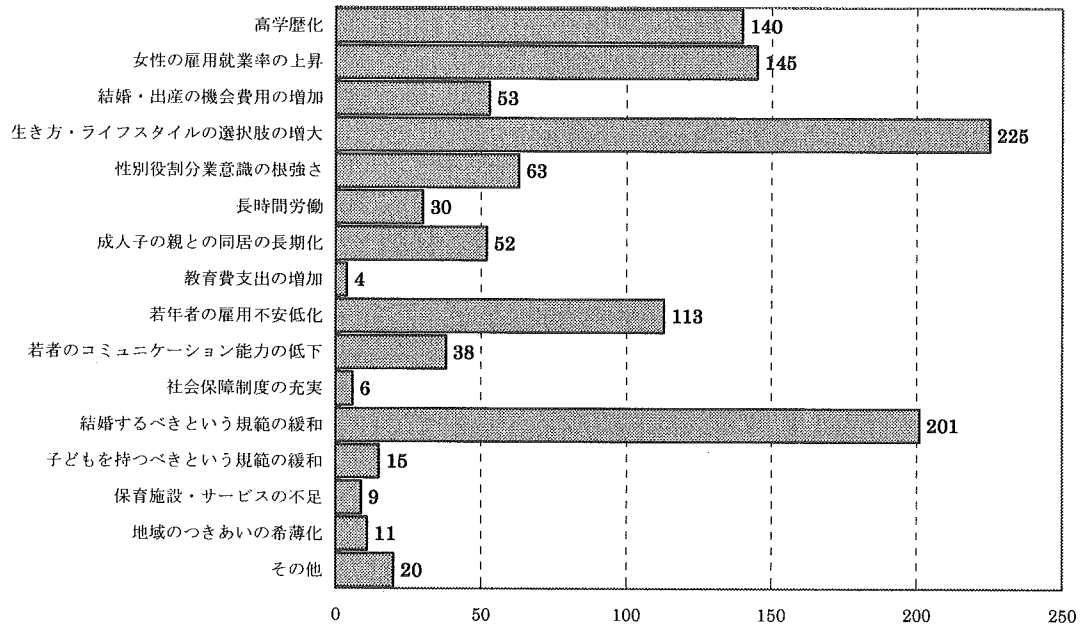
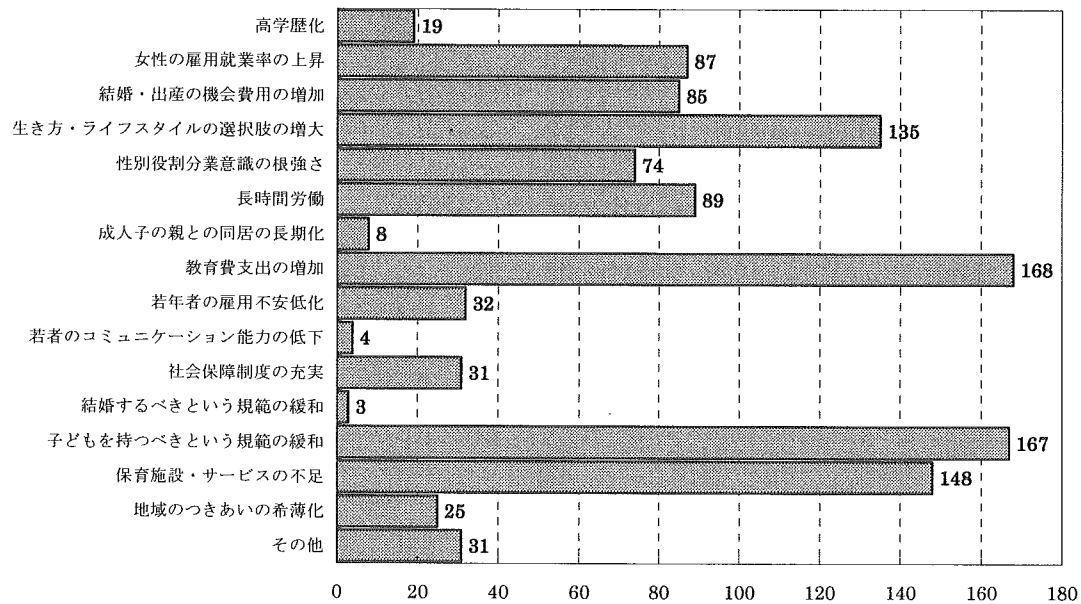


図9 少子化の原因：出生行動の変化



少子化の原因を大きく結婚行動と出生行動の変化にわけ、それらの変化を進めた主な社会経済的背景をそれぞれ選択してもらった。結婚行動の変化については（図8）、「生き方、ライフスタイルの選択肢の増大」（225）と「結婚するべきという規範の緩和」（201）が多く、続いて「女性の雇用就業率の上昇」（145）、「高学歴化」（140）、「若年者の雇用不安低下」（113）となっていた。出生行動の変化については（図9）、「教育支出の増加」（168）、「子どもを持つべきという規範の緩和」（167）が多く、「保育施設・サービスの不足」（148）、「生き方、ライフスタイルの選択肢の増大」（135）が続いている。

2. 「将来の人口の動き」について

2-0. 各予測値の記述統計

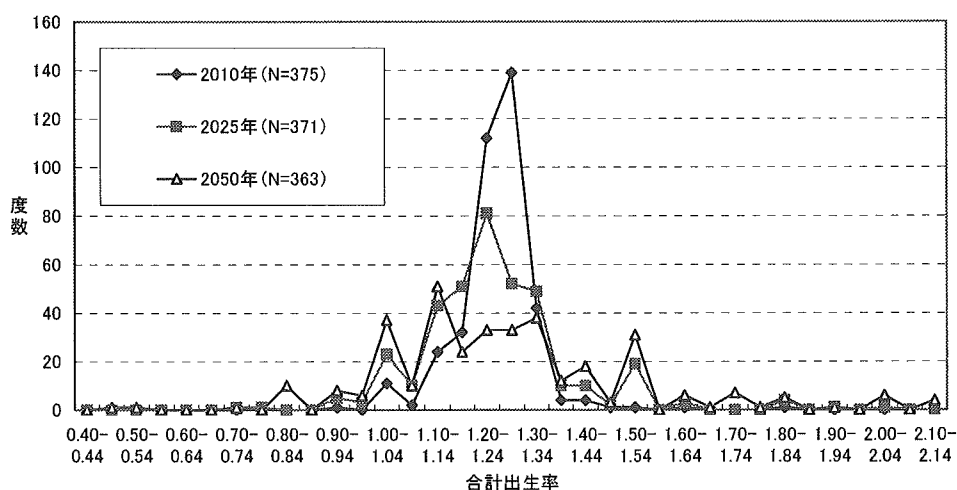
表3 各設問に対する将来予測値（記述統計）

統計指標	2010年合計出生率予測値	2025年合計出生率予測値	2050年合計出生率予測値	2025年男性平均寿命予測値	2050年男性平均寿命予測値	2025年女性平均寿命予測値	2050年女性平均寿命予測値
度数 有効	375	371	363	376	370	376	369
欠損値	14	18	26	13	19	13	20
平均値	1.23	1.22	1.25	79.43	80.22	86.33	86.92
中央値	1.25	1.20	1.20	80	80	87	88
最頻値	1.20	1.20	1.10	80	80	87	90
標準偏差	0.08	0.15	0.25	2.29	4.61	2.66	4.83
最小値	0.90	0.70	0.45	70	65	70	67
最大値	1.80	2.00	2.10	88	100	93	110

統計指標	2025年男性生涯未婚率予測値	2050年男性生涯未婚率予測値	2025年女性生涯未婚率予測値	2050年女性生涯未婚率予測値	2025年女性平均初婚年齢予測値	2050年女性平均初婚年齢予測値
度数 有効	370	366	371	366	370	362
欠損値	19	23	18	23	19	27
平均値	16.12	18.76	9.35	12.18	28.99	29.79
中央値	15	18	8	10	29	30
最頻値	15	20	10	10	30	30
標準偏差	3.81	6.30	3.89	5.68	1.14	2.08
最小値	9	7	4	1	25	24
最大値	35	50	30	50	35	40

2-1. 将来の合計(特殊)出生率は、どのくらいになると予想されますか。2010年、2025年、2050年の3時点について、具体的な数値をご記入ください（図10）。

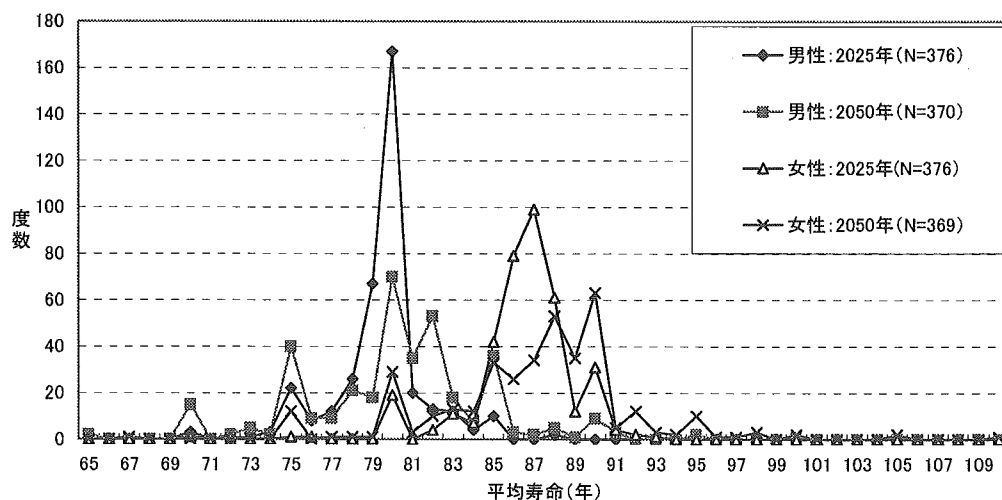
図10 2010年、2025年、2050年の合計（特殊）出生率の予測値分布



2010年から2050年までの予測値の平均値は、それぞれ1.23(2010年)、1.22(2025年)、1.25(2050年)となっており、合計(特殊)出生率はおおよそ1.2前後で推移すると予測されている。

2-2. 2025年、2050年ごろには、日本人男女の平均寿命（0歳時の平均余命）はどのくらいになると予想されますか。具体的な数値をご記入ください（図11）。

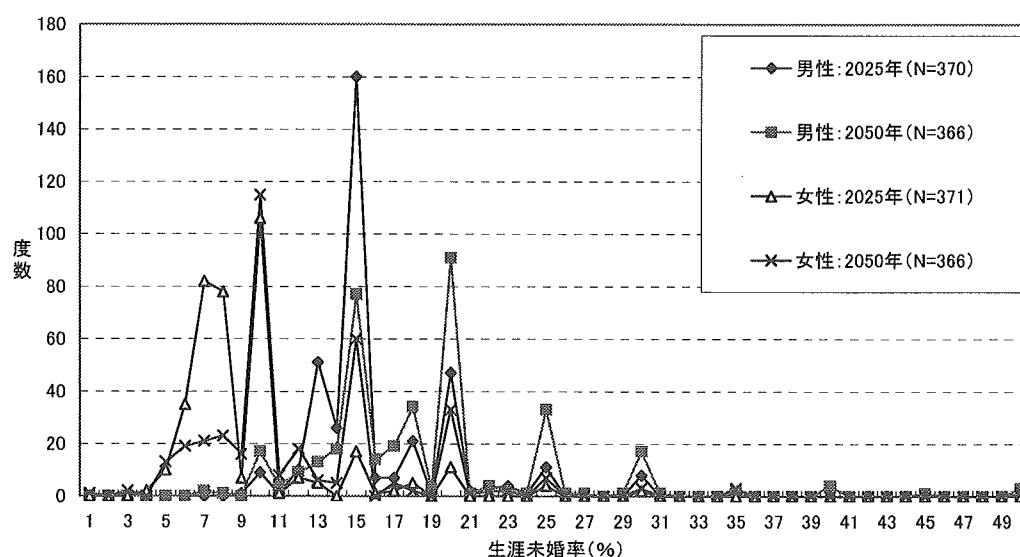
図11 2025年、2050年の性別の平均寿命（0歳時の平均余命）の予測値分布



2025年と2050年における平均寿命（0歳時の平均余命）は、2004年の実績値（男性78.6年、女性85.6年）に対して男性は2年の増加（80.2年：2050年）、女性は1.3年の増加（86.9年：2050年）となっている。

2-3. 50歳まで独身を通した人の割合（これを生涯未婚率といいます）は、2025年、2050年には、どのくらいになると予想されますか（図12）。

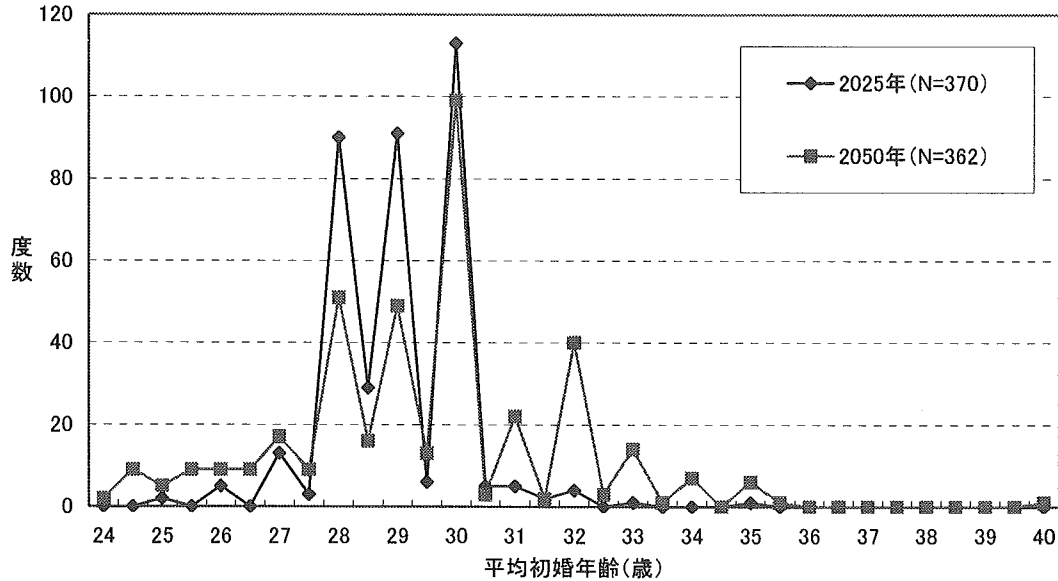
図12 2025年、2050年の性別の生涯未婚率の予測値分布



50歳まで独身を通した人の割合（生涯未婚率）についての2025年、2050年における予測値の平均値は、男性で16.12%（2025年）、18.76%（2050年）、女性で9.35%（2025年）、12.18%（2050年）となっている。

2-4. 2025年、2050年には、女性の平均初婚年齢はどのくらいになると予想されますか。具体的な数値をご記入ください（図13）。

図13 2025年、2050年の女子の平均初婚年齢の予測値分布



女性の平均初婚年齢の2025年、2050年の予測値の平均値は、2025年で28.99歳、2050年で29.79歳と2004年の実績値27.8歳から2歳前後増加するという予測になっている。

2-5. これから20年くらいを考えたとき、結婚する男女が持つ子どもの数は、どうなると予想されますか（表4、5）。

表4 結婚する男女の子ども数の動向

	度数	パーセント
減少する	226	58.1
現状と変わらない	128	32.9
増加する	27	6.9
わからない	4	1.0
不詳	4	1.0
合計	389	100

表5 「減少する」理由の内訳

	度数	パーセント
子どもを持たない夫婦が増える	86	38.1
二人以上持つ夫婦が減り、一人っ子を持つ夫婦が増える	138	61.1
不詳	2	0.9
合計	226	100

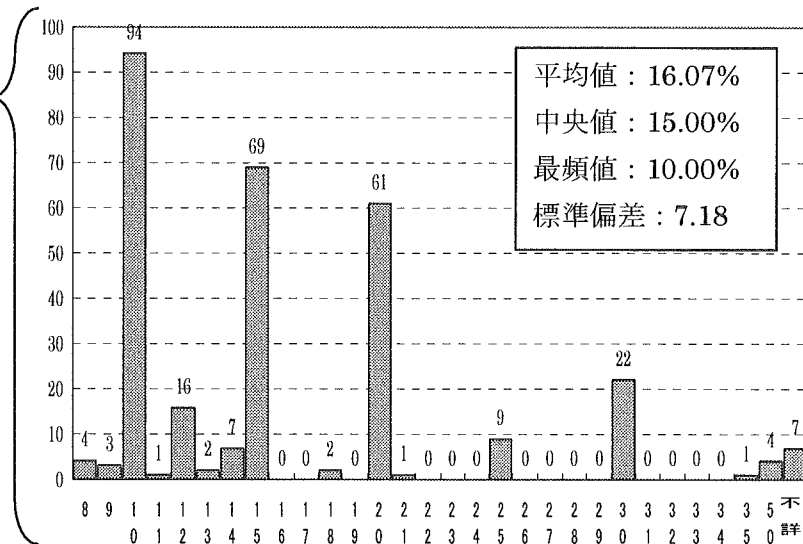
これから20年くらいに結婚する男女が持つ子どもの数は、6割弱が「減少する」と回答した。「減少する」理由の内訳は、「二人以上持つ夫婦が減り、一人っ子を持つ夫婦が増える」が6割となっており、「子どもを持たない夫婦が増える」という回答は4割弱だった。子ども数は「現状と変わらない」とする回答も3割程度あった。

2-6. 現在、18~34歳の未婚男女のうち、同棲経験のある人は約7%とされています。
 これから20年くらいを考えたとき、同棲経験のある未婚者の割合は、どうなると
 予想されますか(表6、図14)。

表6 同棲経験割合の動向

	度数	パーセント
上昇する	303	77.9
現状と変わらない	72	18.5
低下する	4	1.0
わからない	6	1.5
不詳	4	1.0
合計	389	100

図14 同棲経験割合の動向：上昇の程度(N=303)



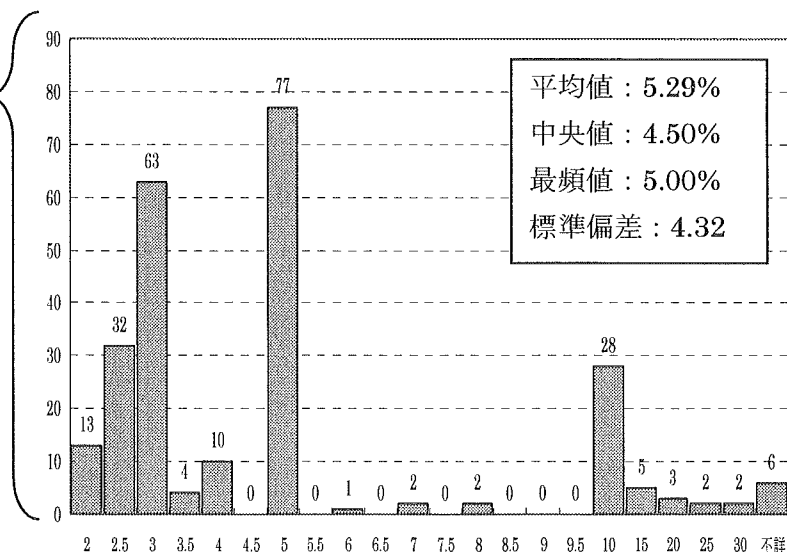
現在、18~34歳の未婚男女の同棲経験割合は今後20年前後でどのように推移するのかわかるといって、8割弱の専門家が「上昇する」と回答した。現状の約7%と同水準である「現状と変わらない」が2割弱となっており、「低下する」と回答する専門家は1%だった。同棲経験割合の上昇の程度については、平均16.07%であった。

2-7. 日本の婚外子(嫡出でない子)の割合は、2003年に1.93%(21、634人)でした。
 これから20年くらいを考えたとき、婚外子割合はどうなると予想されますか(表7、図15)。

表7 婚外子割合の動向

	度数	パーセント
上昇する	249	64.0
現状と変わらない	125	32.1
低下する	6	1.5
わからない	4	1.0
不詳	5	1.3
合計	389	100

図15 婚外子割合の動向：上昇の程度(N=249)



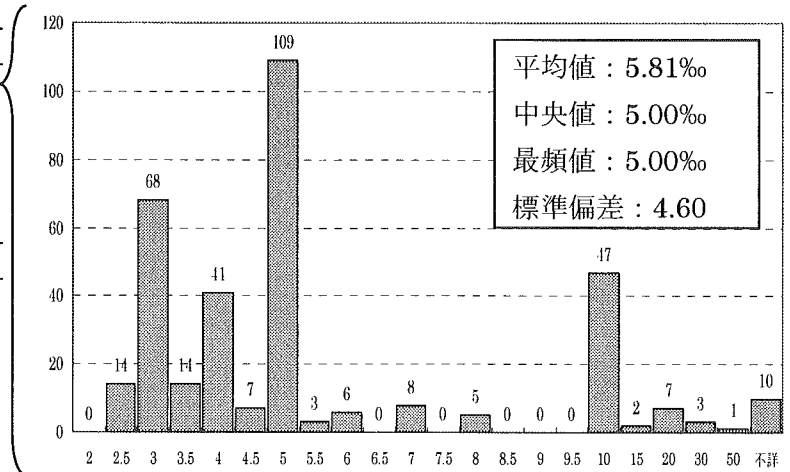
婚外子（嫡出でない子）の割合が今後20年程度でどのように推移するのかという質問に対して、64%が「上昇する」と回答した。「現状と変わらない」という回答も3割を占める。婚外子割合の上昇の程度については、平均5.29であり、現状（1.93、2003年）の2倍強となっている。

2-8. 日本の離婚率は、2003年に2.25%（約28万組）でした。これから20年くらいを考えたとき、離婚率はどうなると予想されますか（表8、図16）。

表8 離婚率の動向

	度数	パーセント
上昇する	347	89.2
現状と変わらない	33	8.5
低下する	2	0.5
わからない	3	0.8
不詳	4	1.0
合計	389	100

図16 離婚率の動向：上昇の程度（N=347）



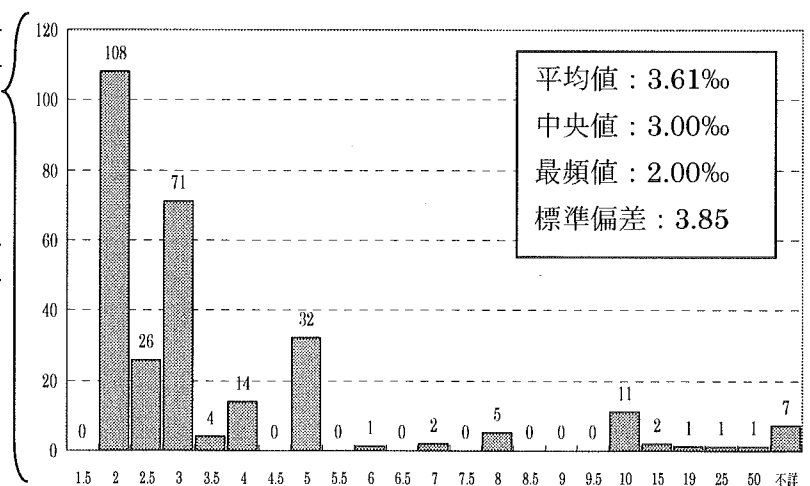
日本の離婚率の今後20年程度の推移に対して、9割の専門家が「上昇する」と回答している。上昇の程度は平均5.81%となっており、現状（2.25%、2003年）の2倍強になるとみられている。

2-9. 日本の再婚率は、2003年に夫1.90%、妻1.59%でした。これから20年くらいを考えたとき、妻の再婚率はどうなると予想されますか（表9、図17）。

表9 再婚率の動向

	度数	パーセント
上昇する	285	73.3
現状と変わらない	67	17.2
低下する	17	4.4
わからない	15	3.9
不詳	5	1.3
合計	389	100

図17 再婚率の動向：上昇の程度（N=285）



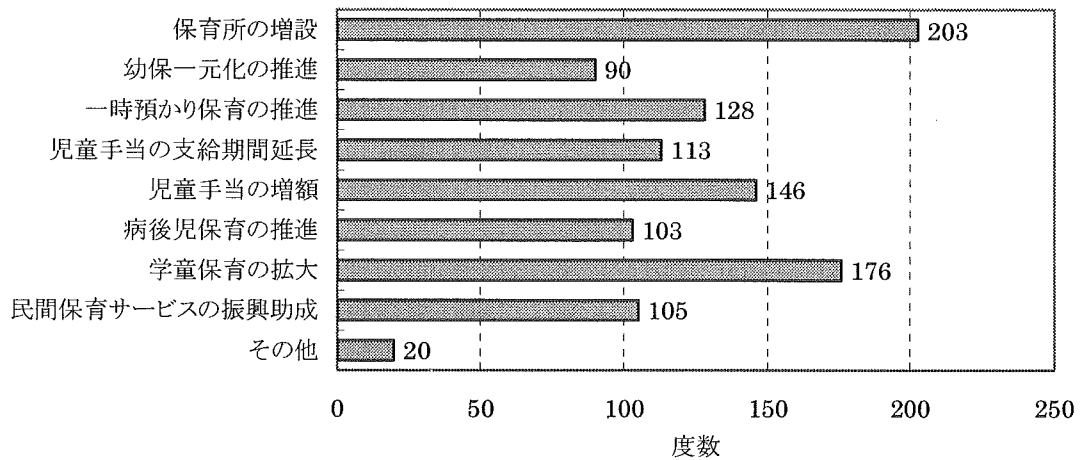
日本の再婚率は、今後 20 年程度でどのように推移するのかに対して、7 割の専門家が「上昇する」と回答した。その一方、2 割弱は「現状と変わらない」と回答している。上昇の程度は、平均 3.61%であり、現状（夫 1.90%、妻 1.59%、ともに 2003 年）の 2 倍程度になるとみられているといえる。

3. 「経済・社会の見通し」について・・・省略（2. 単純集計結果参照）

4. 「少子化対策」について

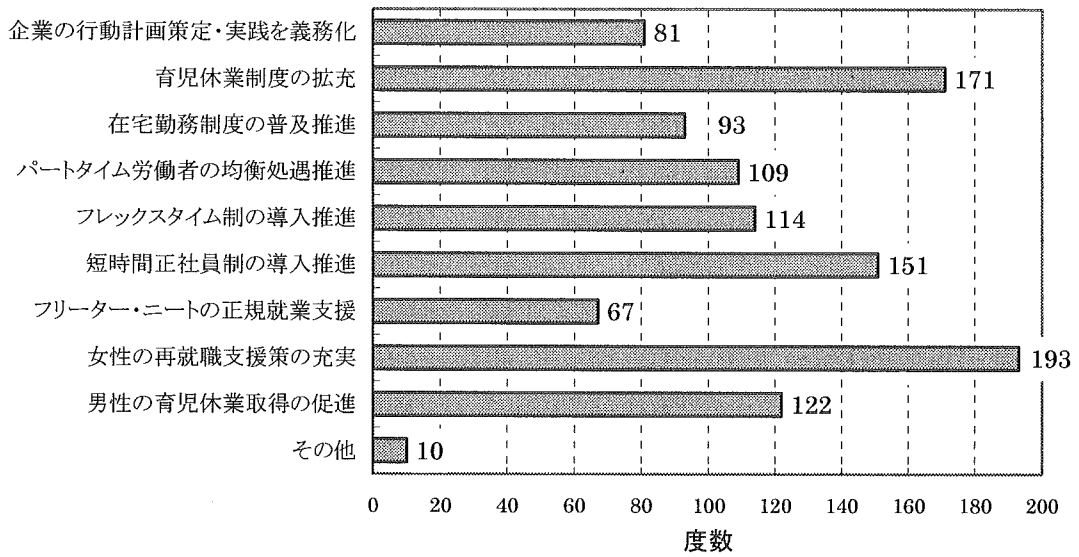
4-1. 少子化対策として推奨する政策を、分野ごとに選択肢ボックスの中から最大 3 つまで選び、回答欄に番号を記入してください（図 18 - 21）。

図 18 少子化対策として推奨する政策：児童福祉（複数回答）



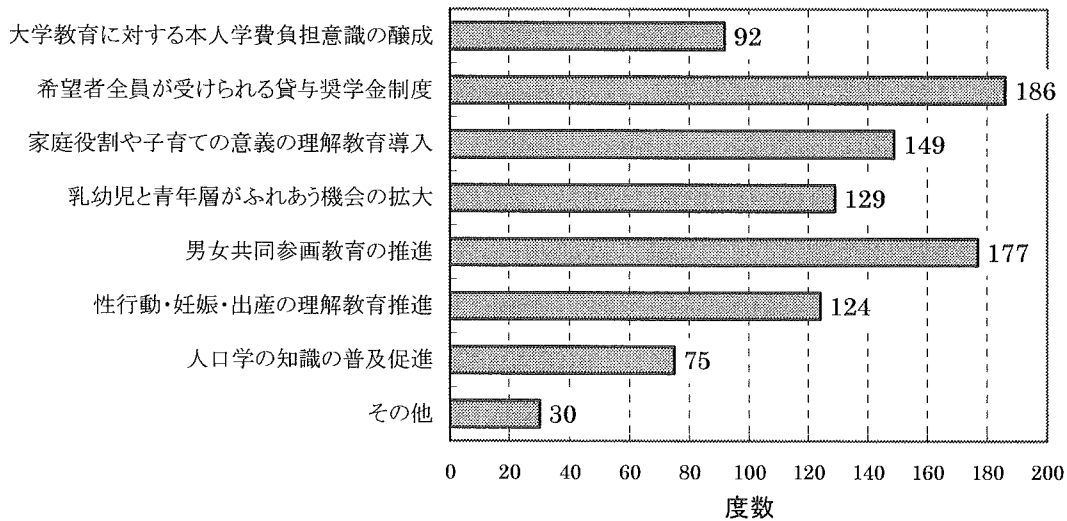
「児童福祉」分野において、少子化対策として推奨する政策は、「保育所の増設」（203）が最も多く、「学童保育の拡大」（176）、「児童手当の増額」（146）、「一時預かり保育の推進」（128）と続いている。

図 19 少子化対策として推奨する政策：働き方（複数回答）



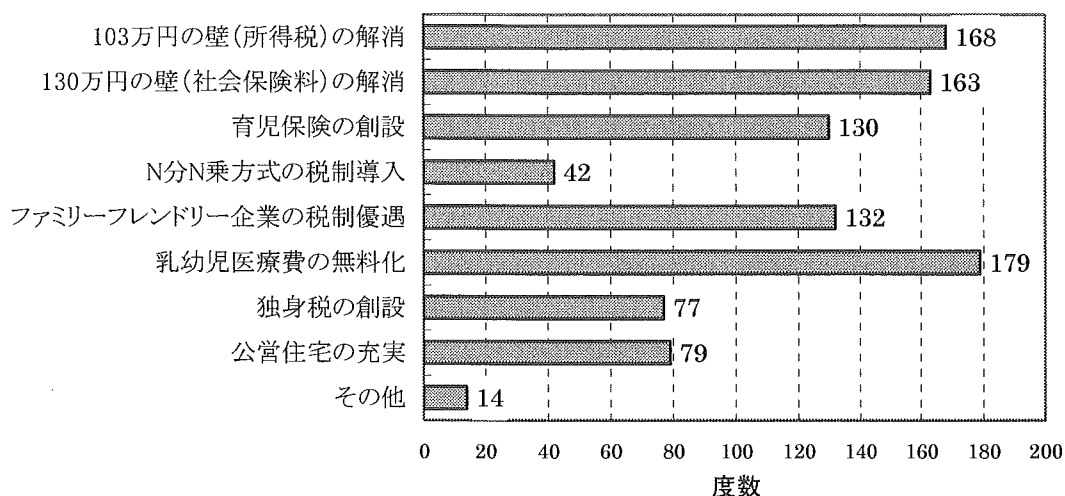
「働き方」分野において、少子化対策として推奨する政策は、「女性の再就職支援策の充実」(193)が最も多く、「育児休業制度の拡充」(171)、「短時間正社員制の導入推進」(151)、「男性の育児休業取得の促進」(122)と続いている。

図 20 少子化対策として推奨する政策：教育（複数回答）



「教育」分野において、少子化対策として推奨する政策は、「希望者全員が受けられる貸与奨学金制度」(186)が最も多く、「男女共同参画教育の推進」(177)、「家庭役割や子育ての意義の理解教育導入」(149)、「乳幼児と青年層がふれあう機会の拡大」(129)、「性行動・妊娠・出産の理解教育推進」(124)と続いている。

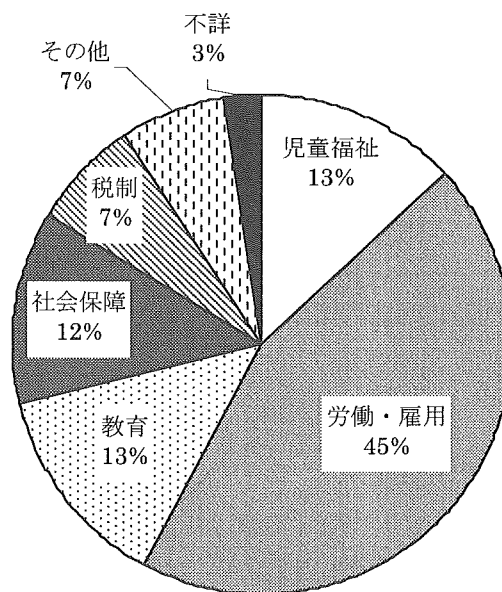
図 21 少子化対策として推奨する政策：税・社会保障（複数回答）



「税・社会保障」分野において、少子化対策として推奨する政策は、「乳幼児医療費の無料化」(179)が最も多く、「103万円の壁の解消」(168)、「130万円の壁の解消」(163)、「ファミリーフレンドリー企業の税制優遇」(132)、「育児保険の創設」(130)と続いている。

4-2. あなたは、少子化対策として、どの分野の政策にもっとも力を入れるべきだと思いますか。

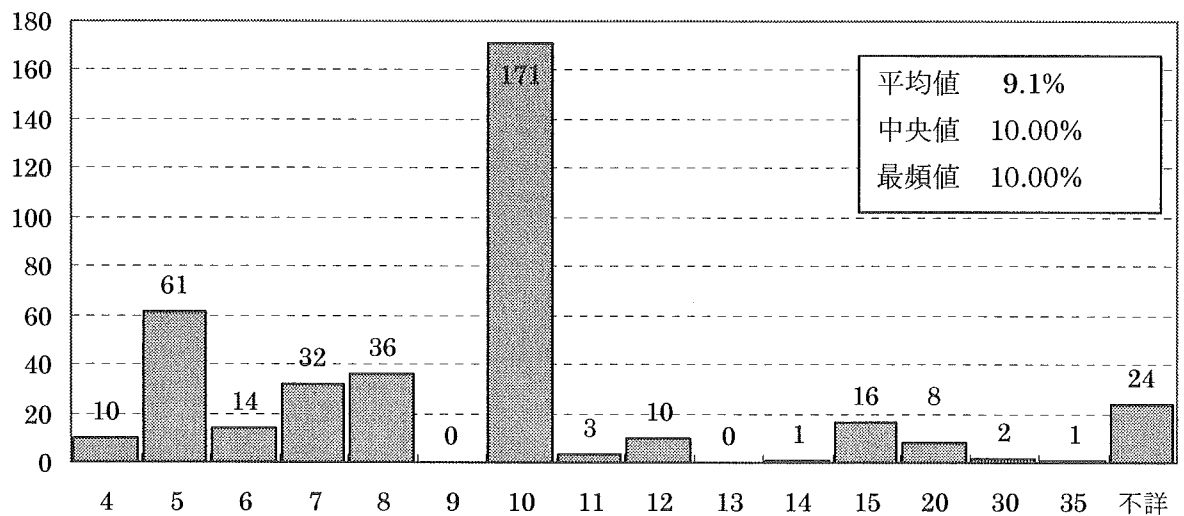
図 22 少子化対策として最も力を入れるべき政策の分野 (N=389)



少子化対策として、どの分野の政策にもっとも力を入れるべきかという質問に対して、「労働・雇用」が45%と最も多く、「児童福祉」と「教育」が13%とこれに続いている。また「社会保障」も12%であった。「税制」は7%と少子化対策としての優先順位は低くなっていた。

4-3. 日本の社会保障給付費に占める児童・家族関係給付費（児童手当、児童福祉サービス、育児休業給付および出産関係費）は、3.8%（約3.2兆円、2003年）*ですが、ヨーロッパ先進諸国の多くは約10%を占めています。あなたは、今後、児童・家族関係給付費をどの程度まで引き上げるべきだと思いますか。

図 23 望ましい社会給付費に占める児童・家族関係給付費の割合



望ましい日本の社会保障給付費に占める児童・家族関係給付費（児童手当、児童福祉サービス、育児休業給付および出産関係費）は平均9.01%と、ヨーロッパ先進諸国並みに引き上げる必要があるとする傾向がみとれる。

2. 単純集計結果

I. 「少子高齢化社会」について

問1 あなたは「少子高齢化社会」にどのようなイメージをお持ちですか。

「少子高齢化社会」に持つイメージ	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
明るいイメージ	8	2.1	2.1	2.1
どちらかという明るいイメージ	37	9.5	9.5	11.6
どちらかという暗いイメージ	280	72.0	72.0	83.5
暗いイメージ	52	13.4	13.4	96.9
不詳	12	3.1	3.1	100.0
合計	389	100.0	100.0	

問2 あなたは「少子化」の流れ（出生率の継続的な低下）をどのように考えていますか。

「少子化」の流れの今後	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
少子化の流れは、いずれ回復する	42	10.8	10.8	10.8
少子化の流れは、今後も進む	256	65.8	65.8	76.6
現在の水準程度で推移する	89	22.9	22.9	99.5
不詳	2	0.5	0.5	100.0
合計	389	100.0	100.0	

問3 現在行なわれている様々な少子化対策についておたずねします。

あなたは「少子化対策」を行なうべきだと考えますか。

「少子化対策」実行の是非	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
少子化対策は、行うべきである	325	83.5	83.5	83.5
少子化対策は、必要ない	48	12.3	12.3	95.9
わからない	11	2.8	2.8	98.7
不詳	5	1.3	1.3	100.0
合計	389	100.0	100.0	

問4（問3で「1」選択者のみ）

現在行なわれている少子化対策は十分だと思いますか。

少子化対策の充実度	度数	パーセント	有効 パーセント	累積 パーセント
十分に充実している	0	—	—	—
十分ではないので、さらに充実すべきである	310	79.7	95.4	95.4
わからない	11	2.8	3.4	98.8
不詳	4	1.0	1.2	100.0
合計	325	83.5	100.0	
非該当	64	16.5		
総数	389	100.0		

問5 少子化の原因として、結婚行動の変化（未婚化・晩婚化・非婚化）と夫婦の出生行動の変化（出生テンポの遅れ、少産化）が挙げられますが、それらの変化を進めたおもな社会経済的背景は、次のどれだと思いますか。（3つまで複数回答可）

問5a

結婚行動変化の原因	度数	選択率
総数	389	
1. 高学歴化	140	36.0
2. 女性の雇用就業率の上昇	145	37.3
3. 結婚・出産の機会費用の増加	53	13.6
4. 生き方・ライフスタイルの選択肢の増大	225	57.8
5. 性別役割分業意識の根強さ	63	16.2
6. 長時間労働	30	7.7
7. 成人子の親との同居の長期化	52	13.4
8. 教育費支出の増加	4	1.0
9. 若年者の雇用不安定化	113	29.0
10. 若者のコミュニケーション能力の低下	38	9.8
11. 社会保障制度の充実	6	1.5
12. 結婚するべきという規範の緩和	201	51.7
13. 子どもを持つべきという規範の緩和	15	3.9
14. 保育施設・サービスの不足	9	2.3
15. 地域のつきあいの希薄化	11	2.8
16. その他	20	5.1

問5b

結婚行動変化の原因	度数	選択率
総数	389	
1. 高学歴化	19	4.9
2. 女性の雇用就業率の上昇	87	22.4
3. 結婚・出産の機会費用の増加	85	21.9
4. 生き方・ライフスタイルの選択肢の増大	135	34.7
5. 性別役割分業意識の根強さ	74	19.0
6. 長時間労働	89	22.9
7. 成人子の親との同居の長期化	8	2.1
8. 教育費支出の増加	168	43.2
9. 若年者の雇用不安定化	32	8.2
10. 若者のコミュニケーション能力の低下	4	1.0
11. 社会保障制度の充実	31	8.0
12. 結婚するべきという規範の緩和	3	0.8
13. 子どもを持つべきという規範の緩和	167	42.9
14. 保育施設・サービスの不足	148	38.0
15. 地域のつきあいの希薄化	25	6.4
16. その他	31	8.0

Ⅱ. 「将来の人口の動き」について

問6 将来の合計(特殊)出生率は、どのくらいになると予想されますか。

統計指標		2010年 合計出生率予測値	2025年 合計出生率予測値	2050年 合計出生率予測値
度数	有効	375	371	363
	欠損値	14	18	26
平均値		1.2275	1.2205	1.2453
平均値の標準誤差		0.00420	0.00801	0.01310
中央値		1.2500	1.2000	1.2000
最頻値		1.20	1.20	1.10
標準偏差		0.08136	0.15433	0.24962
分散		0.007	0.024	0.062
最小値		0.90	0.70	0.45
最大値		1.80	2.00	2.10

2010年 TFR予測値の確信度

確信度	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
大	62	15.9	15.9	15.9
中	200	51.4	51.4	67.4
小	110	28.3	28.3	95.6
不詳	17	4.4	4.4	100.0
合計	389	100.0	100.0	

2025年 TFR予測値の確信度

確信度	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
大	30	7.7	7.7	7.7
中	171	44.0	44.0	51.7
小	167	42.9	42.9	94.6
不詳	21	5.4	5.4	100.0
合計	389	100.0	100.0	

2050年 TFR予測値の確信度

確信度	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
大	23	5.9	5.9	5.9
中	119	30.6	30.6	36.5
小	217	55.8	55.8	92.3
不詳	30	7.7	7.7	100.0
合計	389	100.0	100.0	

※ 確信度：大＝該当事項に関する専門知識に基づいて判断した、中＝専門ではないが、一般的な知識から判断した、小＝判断にあたって十分な根拠を持っていない

2010年 合計出生率予測値

TFR	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0.90	1	0.3	0.3	0.3
1.00	11	2.8	2.9	3.2
1.05	1	0.3	0.3	3.5
1.08	1	0.3	0.3	3.7
1.10	18	4.6	4.8	8.5
1.11	1	0.3	0.3	8.8
1.12	1	0.3	0.3	9.1
1.14	4	1.0	1.1	10.1
1.15	17	4.4	4.5	14.7
1.17	4	1.0	1.1	15.7
1.18	5	1.3	1.3	17.1
1.19	6	1.5	1.6	18.7
1.20	92	23.7	24.5	43.2
1.22	5	1.3	1.3	44.5
1.23	7	1.8	1.9	46.4
1.24	8	2.1	2.1	48.5
1.25	74	19.0	19.7	68.3
1.26	12	3.1	3.2	71.5
1.27	23	5.9	6.1	77.6
1.28	15	3.9	4.0	81.6
1.29	15	3.9	4.0	85.6
1.30	37	9.5	9.9	95.5
1.31	4	1.0	1.1	96.5
1.32	1	0.3	0.3	96.8
1.35	4	1.0	1.1	97.9
1.40	4	1.0	1.1	98.9
1.45	1	0.3	0.3	99.2
1.50	1	0.3	0.3	99.5
1.60	1	0.3	0.3	99.7
1.80	1	0.3	0.3	100.0
合計	375	96.4	100.0	
不詳	14	3.6		
総数	389	100.0		

2025年 合計出生率予測値

TFR	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0.70	1	0.3	0.3	0.3
0.80	1	0.3	0.3	0.5
0.90	5	1.3	1.3	1.9
0.92	1	0.3	0.3	2.2
0.95	2	0.5	0.5	2.7
0.98	1	0.3	0.3	3.0
1.00	19	4.9	5.1	8.1
1.01	3	0.8	0.8	8.9
1.03	1	0.3	0.3	9.2
1.05	6	1.5	1.6	10.8
1.08	2	0.5	0.5	11.3
1.09	2	0.5	0.5	11.9
1.10	38	9.8	10.2	22.1
1.11	2	0.5	0.5	22.6
1.12	3	0.8	0.8	23.5
1.13	1	0.3	0.3	23.7
1.15	39	10.0	10.5	34.2
1.16	1	0.3	0.3	34.5
1.17	2	0.5	0.5	35.0
1.18	4	1.0	1.1	36.1
1.19	5	1.3	1.3	37.5
1.20	69	17.7	18.6	56.1
1.21	2	0.5	0.5	56.6
1.22	2	0.5	0.5	57.1
1.23	4	1.0	1.1	58.2
1.24	4	1.0	1.1	59.3
1.25	29	7.5	7.8	67.1
1.26	4	1.0	1.1	68.2
1.27	6	1.5	1.6	69.8
1.28	1	0.3	0.3	70.1
1.29	12	3.1	3.2	73.3
1.30	45	11.6	12.1	85.4
1.31	1	0.3	0.3	85.7
1.32	2	0.5	0.5	86.3
1.33	1	0.3	0.3	86.5
1.35	10	2.6	2.7	89.2
1.40	10	2.6	2.7	91.9
1.45	2	0.5	0.5	92.5
1.50	19	4.9	5.1	97.6
1.60	3	0.8	0.8	98.4
1.80	4	1.0	1.1	99.5
1.90	1	0.3	0.3	99.7
2.00	1	0.3	0.3	100.0
合計	371	95.4	100.0	
不詳	18	4.6		
総数	389	100.0		

2050年 合計出生率予測値

TFR	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
0.45	1	0.3	0.3	0.3
0.50	1	0.3	0.3	0.6
0.70	1	0.3	0.3	0.8
0.80	10	2.6	2.8	3.6
0.90	8	2.1	2.2	5.8
0.95	4	1.0	1.1	6.9
0.97	1	0.3	0.3	7.2
0.98	1	0.3	0.3	7.4
1.00	35	9.0	9.6	17.1
1.02	1	0.3	0.3	17.4
1.03	1	0.3	0.3	17.6
1.05	7	1.8	1.9	19.6
1.08	2	0.5	0.6	20.1
1.09	1	0.3	0.3	20.4
1.10	46	11.8	12.7	33.1
1.11	1	0.3	0.3	33.3
1.13	2	0.5	0.6	33.9
1.14	2	0.5	0.6	34.4
1.15	15	3.9	4.1	38.6
1.16	1	0.3	0.3	38.8
1.18	6	1.5	1.7	40.5
1.19	2	0.5	0.6	41.0
1.20	37	9.5	10.2	51.2
1.21	1	0.3	0.3	51.5
1.22	4	1.0	1.1	52.6
1.23	3	0.8	0.8	53.4
1.24	3	0.8	0.8	54.3
1.25	17	4.4	4.7	59.0
1.26	4	1.0	1.1	60.1
1.27	2	0.5	0.6	60.6
1.29	10	2.6	2.8	63.4
1.30	35	9.0	9.6	73.0
1.32	1	0.3	0.3	73.3
1.34	2	0.5	0.6	73.8
1.35	9	2.3	2.5	76.3
1.36	1	0.3	0.3	76.6
1.38	1	0.3	0.3	76.9
1.39	1	0.3	0.3	77.1
1.40	18	4.6	5.0	82.1
1.45	3	0.8	0.8	82.9
1.50	31	8.0	8.5	91.5
1.60	6	1.5	1.7	93.1
1.65	1	0.3	0.3	93.4
1.70	7	1.8	1.9	95.3
1.75	1	0.3	0.3	95.6
1.80	5	1.3	1.4	97.0
1.90	1	0.3	0.3	97.2
2.00	6	1.5	1.7	98.9
2.10	4	1.0	1.1	100.0
合計	363	93.3	100.0	
不詳	26	6.7		
総数	389	100.0		